

思いやりいっぱい場所

静岡県 伊佐見小学校

6年 水野 瑛仁

『そうた』じゃなく『えいと』だよ。」

「おー、『えいと』か、大きくなったなあ。」

最近、僕のおじいちゃんはいつも、ぼくといこのお兄ちゃんを間違える。ぼくは、背も体重もどんどん大きくなっているし、お勉強もがんばっているつもりだけれど、おじいちゃんの中のぼくは、今もこれからも、小さい子どものままだ。

最近のぼくのおじいちゃんは、忘れんぼうだ。いろいろわからないみたいで、どうしていいのかわからないのか、いつもさみしそうな顔をしている。ぼくを呼ぶ声も元気がない。夏休みの間、おじいちゃんは、何度もいなくなってしまった。

「仕事へ行ってくる！」

と言って、電動自転車で出かけようとする。おばあちゃんも、いとこのお兄ちゃんも、必死で止める。ぼくもがんばる。

「じいじ、今日は、ぼくも学校がお休みでお家にいるよ。じいじもお仕事はお休みだよ。」

おじいちゃんを見て、立っているおじいちゃんの手をさわって、ゆっくりやさしく声をかける。お母さんに教えてもらった『※ユマニチュード』をやってみる。でも、なかなか上手くできない、難しい。気づくと、おじいちゃんはいなくなっているし、帰ってこない。

今度はお父さんも加わって、みんなで探しに行く。ぼくは連絡係で、お留守番だ。やっと見つかって、家へ帰ってくると、みんなほっとする。でも、おじいちゃんは、またどこかへ出かけてしまう。そしてまた、みんなで探す。おばあちゃんは、つかれてしまって元気がない。

久しぶりに、おじいちゃんとお風呂に入った。ぼくが小さいときは、おじいちゃんがぼくの髪や体を洗ってくれた。今は、ぼくがおじいちゃんの背中を洗う番だ。そして、体をふいたり、着替えのお手伝いをする。おじいちゃんは、ニコニコとうれしそうだ。ぼくもうれしくなる。ニコニコ笑顔のおじいちゃんが、ぼくは大好きだ。

ぼくのお父さんとお母さんは、毎日仕事で帰りがおそい。ぼくは学校が終わると、おじいちゃんとおばあちゃんの家へ帰る。おばあちゃんが作る、夕ご飯のいいにおいが大好き。学校の先生をしていたおじいちゃんは、お勉強が得意で、宿題をみてる。

「えいととは、書き取りの字がきれいだなあ。」「えいととは、計算が速いなあ。」と、いつもニコニコ言ってくれた。

学校でいやなことがあったときも、お母さんにおこられて泣いたときも、ここへ来るとほっとする。笑顔になれるし、元気になれる。ぼくにとってここは、思いやりいっぱい場所。これからは、ぼくもがんばるぞ。おじいちゃんとたくさんいっしょにいて、目を見て、手をつないで、たくさんお話ししよう。そして、思いやりいっぱい場所をプレゼントする！

おじいちゃんやおじいちゃんみたいな人たちが、これからもニコニコ笑顔で安心して暮らしていけるように。

※ユマニチュード：「人間らしさを取り戻す」という意味のフランスの造語で、主に認知力が低下した高齢者や認知症患者に対し、認知力の向上を目指すケア・コミュニケーション技法。